

あとから来る者のために
坂村 真良

あとから来る者のために
田畑を耕し
種を用意しておくのだ
山を
川を
海を
きれいにしておくのだ
ああ
ああから来る者のために
苦勞をし
我慢をし
みなそれぞれの力を傾けるのだ
あとからあとから続いてくる
あの可愛い者たちのために
みなそれぞれ自分にできる
なにかをしてゆくののだ

令和7年 第3回 EM技術セミナー

U-net 会員対象の第3回EM技術セミナーが7月4日にオンラインで開催されました。
今回は、4名の方に発表いただきました内容をご紹介します。

「EMごぼう栽培」

赤の郷きらきらふあ～む 杉山志津子

山口県美祢市美東町赤郷、秋吉台の麓に住んでおります杉山志津子と申します。私はEMを使ったごぼう栽培に取り組んでいます。この地は古くから秋吉台カルスト大地の恵みを活かしたごぼう作りが盛んで、柔らかくきめ細かで風味豊かなごぼうはとても人気で特産品になっています。

ごぼう栽培を始めたのは2014年、農業は最もやりたくない職業でしたが、父の病気によりごぼう作りができなくなり、楽しみにしていた友人たちの声に応えるかたちで始めることになりました。右も左もわからない状態からのスタートでした。「口に入るものはどんな土で作るかが大切」ということは分かっているが、ごぼう作りの先輩方から教わるやり方は化学肥料や殺虫剤を使いますから、葛藤しながらの5年間でもありました。人手が足らずもう無理かも～と困ったときには必ず助けてくださる方が現れ、「これは進むべき道なのかもしれない」と励まされました。2019年、「愛と微生物のすべて」の本を読み、蘇生の映画も見て、ごぼう作りをする私にとって、EMが希望の光になりました。



EMグラビトン竹炭



「赤の郷 きらきらふあ～む」という名は、故郷である赤郷という地名に由来します。「輝くいのちの循環」はごぼう畑で閃きました。畑が微生物の楽園になり、そこで気持ちよく育つごぼう、私たちも感謝と誇りを持って元気に働かせて頂く、そして召し上がって下さった方々も美味しさに喜び、元気になってそれぞれの生命が輝き循環する事を願ってつけました。

EMを活用した畑づくりは、試行錯誤を繰り返しながら、ようやく一定の方法が確立されつつあります。毎年、10a ぐらいの作付面積です。土作りのための資材集めも仲間が増えてなんとか回る様になりました。雪が溶け、畑が弛む3月中旬ぐらいからEMを使った「場づくり」として、12～13か所にユンボで50cm 四方の穴を掘り、そこに塩と整流炭、活性液や竹酢液など入れて土を被せます。整流炭は、竹の伐採から炭にするまで全て自分たちの手で行い、EMをかけて消火したものです。これをEM活性液と水、EM3を加えて3日以上含浸



土作りの様子



整流結界

させた後、ザルにあげてビニールシート上に広げ、天日干して太陽のエネルギーと光合成細菌の力を取り入れます。地下結界ができれば、畑に米糠、もみ殻ボカシ、整流炭、塩、草堆肥などを撒き、30倍ぐらいの活性液を撒いて表面を軽くトラクターで鋤き込んだら畑の周囲の「結界づくり」が始まります。今年の畑は周囲約130mに4m間隔で支柱を立てます。支柱には、塩、比嘉先生のグラビトン炭、EMX GOLD を5cc入れた「波動入りペットボトル」をイノシシ対策として高さ50cmと70cmを目安に2本つけます。これらを上下2段、紐で2周繋ぎ、その紐の下に塩、グラビトン炭、EM活性液を撒きながら周囲を繋ぎ「場」を整えます。出入り口には30cmほどの穴を掘り、塩と整流炭、整流ブロックを入れ、点滴方式で波動を高めます。

4月下旬に種蒔き、11月中旬ぐらいからごぼう掘りが始まります。その間にEM活性液による葉面散布を行います。昨年は20回以上撒きました。全ての作業はEM讃詞、祈りと共にあります。

EMを取り入れてからごぼう栽培で変わったことは、まず土壤の休耕期間が短くなり、塩や炭を撒いているお陰で草取りがとても楽になりました。「根切り虫」の被害も減少しました。また、私の感覚も変わり、生命の多様性あつての美しい地球、みんなで少しずつ分け合ひましようという穏やかな気持ちも持てるようになりました。結界の中は非常に心地よく、痛みや疲れも和らぎ、水も結界内と外で飲み比べると味に違いがあり、結界やEM散布の効果の素晴らしさを実感しています。ごぼうの味も、さらにまろやかで美味しく、日持ちも良くなり、1月中旬に収穫したものが7月になっても冷蔵保存で食べられるほどです。アク抜きも必要なく、水にさらさずそのまま調理できます。

また、全国のEMファンの方々とセミナーなどを通じてつながることができました。農協などに卸さず、ご注文いただいた方々へ発送させていただくので、作る人と食べる人が直接つながることができます。誰がどんな想いでどんな方法で作っているのかわかるし、作る私たちは直接「美味しいね」、のお声が聞けることが何よりの励みになります。収穫には粘土質の畑のためユンボを使い、溝を掘りその中に入って一本ずつ手で抜いて、泥も拭き取っていくのでとても手間がかかります。ですが無事に収穫の時を迎えて全国からご注文を頂き送り出せることは、安堵と共に本当に幸せな事です。ごぼうと共に私のお気に入りレシピも添えて発送しております。土づくりから収穫、調理まで一貫して関わられるのは、私の大きな強みだと感じています。太さや長さ、形が様々なごぼうも、そのサイズに合わせたお料理をご提案できます。農協に出荷する場合は、サイズや形の規格が厳しく、規格外のものは価値がものすごく下がってしまいます。我が家のごぼうを待ってくださる方は「小さくても短くても美味しいから嬉しい」とおっしゃっていただき、すべてのごぼうに価値を見出してくださいませ。本当にありがたいことです。細く小さいごぼうもささがきして天日干して「ごぼう茶」にしたり、「味噌漬け」にすることで保存性も高まり、無駄なく活用できます。こうしたアイデアは、ごぼうが大好きで手伝いに来てくださる方々の協力から生まれたものであり、大変ありがたく感じております。

私はEMを通じて、微生物の持つ可能性の大きさを実感しています。沖縄県北中城村にあるEM研究施設を訪れた際には、すべてが無駄なく生かされている光景に、未来への大きな希望を感じました。たくさんの方々から学ばせていただいた貴重な情報や、私自身のごぼう作りを通じて、微生物の力や素晴らしさを経験によって学んだことを、「より多くの人に伝えたい！」と思い、月に一度はEMに関するセミナーを開催しています。また、ごぼう畑の見学や、環境浄化の一環として、地域の河川や海へのEM団子投げなどにも取り組んでいます。現在、この地域ではごぼう作りをされてきた生産者が高齢化しており、後継者が少ないという大きな課題を抱えています。私自身もかつては農業にまったく興味がありませんでしたが、EMを使つてのごぼう作りを通して自然と共にお日様の下で仲間と共に働かせて頂く喜び、学びに深く感謝しています。EM農法に共感し、ごぼう作りを始める次の世代の方が現れた時には、全力で応援していきたいと考えています。私の願いは、一人でも多くEMを使う方が増えていくことでキラキラと蘇生された輝く場所が、地球上にどんどん広がることです。そして、その一つ一つが繋がることで、本当に素晴らしい未来が創られていくとわくわくしています。地球を救う大変革の一部を担わせて頂けましたら幸いです。

この度は、このような素晴らしい機会を与えていただきましたことに感謝いたします。



「EMユニバーサルビレッジ・おきなわ ～蘇生型地域環境づくり&人財バンクプラットフォーム構築～」

地域応援団おおとり会 代表 喜友名秀樹 実施地:沖縄県

沖縄県より地域応援団おおとり会、代表の喜友名秀樹(きゆな ひでき)と申します。この度は「令和7年度ユニバーサルビレッジモデルづくりプロジェクト助成事業」へご採択いただき、誠にありがとうございます。我々のプロジェクト『EMユニバーサルビレッジ・おきなわ ～蘇生型地域環境づくり&人財バンクプラットフォーム構築～』を発表させていただきます。



EMユニバーサルビレッジ・おきなわ

～蘇生型地域環境づくり
&
人財バンクプラットフォーム構築～

沖縄県読谷村
 地域応援団おおとり会
 代表 喜友名秀樹



2013年	NPO法人地域振興応援団おおとり会 発足 ～風土と食と人をつなぐ～
2018年	⇒地域応援団おおとり会
2019年	地域活動にEMを取入れた活動を開始
2021年	「EM団子で比謝川浄化大作戦」 4年間を経て⇒延べ50団体、EM団子23,960個投入
2024年	「世界EM団子の日ワールドフェスティバル」開始

まず、我々の活動についてご紹介させていただきます。2013年、「風土と食と人をつなぐ」をコンセプトに「NPO 法人地域振興応援団おおとり会」を発足しました。個人事業者や個人を中心に地域の魅力や活性化を目指して進んできました。2018年、NPO法人から任意団体「地域応援団おおとり会」へと、プロジェクト型の地域活動へ変更しました。2019年にEMを知り、EMを取入れた地域環境活動を開始しました。様々なEM生活やEM活動を経て2021年、「EM団子で比謝川浄化大作戦」の活動を始めました。沖縄本島で最大の流域面積を持つ比謝川へ、4年間で延べ50団体が参加し、EM団子を23,960個投入してきました。2024年、「世界EM団子の日ワールドフェスティバル」を開催しました。我々の活動としまして、自治会・学校・地域の諸団体・民間企業・個人・児童館などが参加していただき、共に河川浄化へ取り組んでいます。



活動を紹介します。①2019年、読谷村横田自治会にて、EM研究機構さんへ1年間に5回の講座をご依頼しました。集会所の側に小川があります。そこでEM団子を投入したところ、地域の方々から話題になるほどキレイになり、比謝川を浄化しようとキッカケになりました。
②個人の畑でEMを使用しました。玉ねぎ・人参・かぼちゃ・レタス・ジャガイモ・レモン・プチトマト・ゴーヤー、へちま・バナナ・ニンニク・らっきょう・月桃・モリンガ・バジル・ヨモギなど、素人ながらもやれたのは、EMさんの働きがあったからこそと、実体験しました。

③コミュニティの実施として、整流結界張り・花壇・EM活性液作り・EMボカン作りなどを行いました。④情報発信として、読谷村のローカルラジオ局(FM78.6MHz)でパーソナリティ番組「EMワールドタイム」を持ち、県内外や海外でのEMを活用した地域環境活動等をお伝えしています。⑤読谷村の「ノーベル平和賞を夢みる村民基金事業」では助成金の採択をいただき、教育教材となる体験型の冊子とドローンで撮影した比謝川浄化大作戦の動画を作成しました。作成しました冊子は、読谷村の学校や自治会等に配布しました。⑥二日間で8万人ほどの来場者がある「読谷まつり」にブース設置し参加しました。「EM団子5,000個作るぞ〜!!」と掲げ、一般参加者186名、ボランティア21名で5,200個を作りました。多くの皆さまに関心を持っていただく機会にもなりました。



①プロジェクト応募の背景

2019年からEM生活やEM活動をやり始め、個人で使用している方やEMを知ってはいるけど、どういものか良く分かっていない方が多いことを知りました。そこで、次世代の皆さんにも繋がっていくよう、このEM技術を知って活用していただき、創造的に蘇生型地域環境づくりに取り組み、共に学び・活動し・報告し合う横繋りのコミュニティや社会性が重要だと感じました。

②プロジェクトの目的

EM技術を活用して、様々な分野の皆さまと共に持続可能な幸福度の高い蘇生型地域環境づくりを目指し、EM生活実践者を通して、社会へ貢献していきます。

(I)蘇生型地域環境づくり (II)人財バンクプラットフォーム構築この二つを柱に実践していきます。

③事業内容

事業内容は、大きく分けて4つあります。

③事業内容

(I)各分野の地域性や特徴を生かしたプロジェクトの実施

- 【地域】EM団子と比謝川ウォークラリー
- 【衛生】地域猫を通しての優しい環境づくり
- 【水産】海を蘇らせる水産養殖
- 【建築】建築結界の推進プロジェクト
- 【福祉】住みよい暮らしの循環型福祉事業
- 【畜産】健康な豚からの循環型畜産農業
- 【農業】読谷村長浜ダム浄化大作戦(農業用水地)
- 【学校】学校プールからの河川、海浄化大作戦
- 【防災】EM生活で防災コミュニティ

(II)各分野の地域性や特徴を生かしたプロジェクトの実施

皆さま、それぞれ地域活動をなさっています。そこにEMを取入れた活動です。9つほど例を上げましたが、実際に始まっているプロジェクトと、これから提案していくプロジェクトがあります。

(II)EM技術者「人財バンクプラットフォーム」の構築

楽しくEMを扱う人・実践し伝え繋げる人を「ファイブスター」の☆を付け、社会貢献度5段階を設定しました。「私はボランティアで活動参加します⇒ブロンズスター☆」「私はEM活性液が作れます⇒シルバースター☆☆」「私はEMを使ってお掃除が出来ます⇒シルバースター☆☆」「私はEMの使い方を教えることが出来ます⇒プラチナスター☆☆☆☆」など、次世代の担い手となる沖縄県の活力あり、ユニークありの人財バンクプラットフォームを構築していきます。

(II)EM技術者
「人財バンクプラットフォーム」の構築

実践し伝え繋げる人⇒ファイブスター☆☆☆☆☆
(社会貢献度5段階)

私はEMで〇〇が出来ます！！	
①ブロンズスター	私は「ボランティアで活動参加します。」
②シルバースター	私は「EMを使って〇〇が出来ます。」
③ゴールドスター	私は「アシスタントが出来ます」「講座の企画が出来ます。」
④プラチナスター	私は「講師が出来ます」「教えることが出来ます」
⑤ダイヤモンド	私は「プロジェクトをプロデュース出来ます。」

沖縄県の活力あり・ユニークありの人財へ

『楽しくEMを扱う人・実践し伝え繋げる人⇒ファイブスター☆☆☆☆☆』

私はEMで〇〇が出来ます！！	
① ブロンズスター☆	私は「ボランティアで活動参加します」
② シルバースター☆☆	私は「EMを使って〇〇が出来ます」
③ ゴールドスター☆☆☆	私は「アシスタントが出来ます」「講座の企画が出来ます」
④ プラチナスター☆☆☆☆	私は「講師が出来ます」「教えることが出来ます」
⑤ ダイヤモンド☆☆☆☆☆	私は「プロジェクトをプロデュース出来ます」

＼沖縄県の活力あり・ユニークありの人財へ／

(III)実践者報告交流会「EM環境創造ワールドフレンドシップ」

県内外、海外の皆さまと活動報告をしながら交流を深めます。実践例として、2023年コスタリカ・ニカラグア・ハワイ・タイ・ケニアの皆さまと活動報告交流をしました。2023年～2024年三重県の皆さま。2024年「EM88フェスタ Zoom 交流会」宮城県・京都府・三重県・ハワイの皆さまと活動報告交流をしました。

(III)実践者報告交流会
EM環境創造ワールドフレンドシップ

【実践例】

- ◇活動報告交流会
コスタリカ、ニカラグア、タイ、ケニア(2023年)
三重県(2024年)
- ◇嘉手納高校×ハワイ(2023年)
- ◇嘉手納ユースセンター×ハワイ(2024)
- ◇EM88フェスタZoom交流会(2024年)
宮城県、京都、三重県、ハワイ
- ◇EM88フェスタ交流会(2024年)
三重県

(IV)社会性・公共性のシステム化「地域連携」

我々と手を取り合って、個人・各分野・企業・行政の皆さまと協力や連携し、『EMユニバーサルビレッジ・おきなわ』を機能させていきたいと考えております。

沖縄県内におきまして行政と連携しています、うるま市や北中城村に次ぐ読谷村を描いております。個人や各分野の横軸のコミュニティと、企業や行政も共に連携していく縦軸の社会性を目指します。読谷村役の公式 HP、下水道課・生活環境課より【生活排水・浄化槽関係】EMIについて(更新日2023年3月29日)と情報発信、推奨されています。情報だけに留まることなく、実践と人財が伴った蘇生型地域環境を私達、一人ひとりの手で創り出していく想いです。



④目標 今年、1年目の目標です。

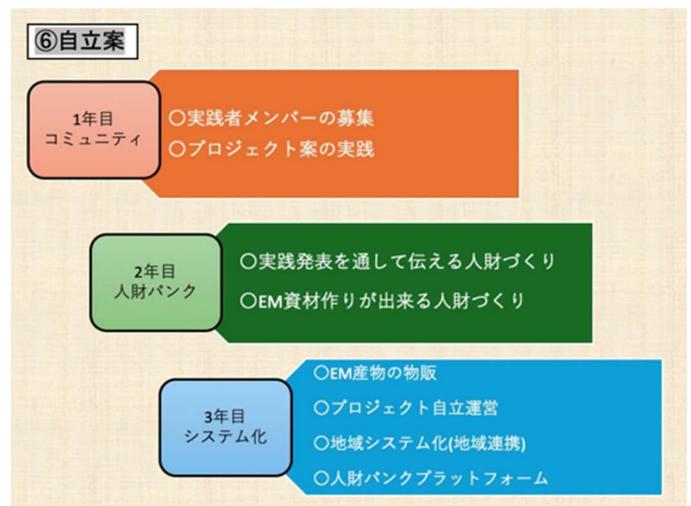
項目	内容	行動・数
環境	EM百倍利器を設置し環境を整える	・場所の確保 ・コンテナの設置
人財	実践者メンバーを募る	30名
プロジェクト	新プロジェクトの実施	3案
学び	映画上映、現場視察、講話など	3回
賛同者	読谷村長浜ダムのEM団子ダム浄化への賛同者を募る	読谷村自治会5～10
連携	行政や団体、企業スポンサー	行政1、団体1、企業3

⑤助成金の使い道

- ・EM百倍利器の設置コンテナ費
- ・プロジェクト実施費
- ・講演会や交流会の企画費 など

⑥自立案

1年目は「コミュニティ」の強化となります。賛同者や実践者メンバーの募集。プロジェクト案の実践。
 2年目は「人財バンク」の土台となります。実践発表を通して伝える人財づくり。EM資材作りが出来る人財づくり。
 3年目は「システム化」として協力、連携の体制を整えます。EM産物の物販。プロジェクト自立運営。地域システム化(地域連携)。人財バンクプラットフォーム。
 4年目からは、各団体のプロジェクトを実践運営しながら、実践も伝えることも出来る人財バンクも稼働させます。オリジナルのEM産物の販売やコミュニティ運営から資金を創出します。また、企業の協賛で共に社会貢献出来る基盤や仕組みをこの3年間で整え、4年目からは自立できるようにチャレンジします。地域交流や国際交流の場面を作り、人が育つ実践へ仕組化していきます。



⑦メンバーの参加条件

本プロジェクト『EMユニバーサルビレッジ・おきなわ ～蘇生型地域環境づくり&人財バンクプラットフォーム構築～』への参加条件は、「目的への賛同や実践者」、「U-net への入会や会員」であることとしています。実践者事例や報告、比嘉教授からの講評など、内容が豊富な U-net での学びやアウトプットは欠かせません。U-net の皆さまのように、我々プロジェクトチームの社会性を高くし、広く社会貢献に繋げていきたい意向です。

本プロジェクトの発表は以上となります。これから3年間、ご指導ご鞭撻、応援をどうぞよろしくお願いいたします。

⑦メンバーの参加条件

EMユニバーサルビレッジ・おきなわ

- ☑目的への賛同や実践者
- ☑U-netへの入会、会員

「EMでつながる“いのちと土”のユニバーサルビレッジ」

EMでこどもの未来を守る会 代表 小林 さや花

みなさま、こんにちは。「EMでこどもの未来を守る会」代表の小林さや花です。

このたび、令和7年度ユニバーサルビレッジモデルづくりプロジェクトに、私たちの提案した「EMでつながるいのちと土のユニバーサルビレッジ」が採択されました。このような貴重な機会をいただきましたこと、まずは心より御礼申し上げます。

私たちの活動は、少人数で始めたEMの勉強会『EM井戸端会議』からスタートしました。EMの力を暮らしに活かしながら、子どもたちの未来と地球環境のことを大切に思い、少しずつできることを重ねてきました。そんな私たちの思いが、今回このようなかたちで広がっていくことになり、メンバー一同とても嬉しく、そしてあらためて気持ちが引き締まる思いです。

●プロジェクトの目的と背景

このモデル事業の目的は、地域資源を最大限に活かし、食と自然の循環を体感できる学びと癒しの場をつくること。そして、都市と田舎の架け橋となり、持続可能な暮らしの実践モデルを全国に発信していくことです。

実施場所は、岐阜県の最西部に位置する揖斐郡揖斐川町谷汲。

西国三十三所の満願霊場として知られる華嚴寺の近くにあり、夏は39度を超すこともあれば、冬は50～60cmもの積雪がある自然豊かな土地です。私たちはここに約3,000坪の土地を所有しており、EMの技術を活かした“いのちと土の循環拠点”として活用していきます。



●これまでの活動

これまでも、以下のような活動を地域の方や、県外からの参加者とともに行ってまいりました。

- ・自然栽培による畑づくり
- ・EM生ゴミ堆肥を利用した栽培・収穫体験
- ・田植えや稲刈りのイベント
- ・EM勉強会の開催
- ・EM活性液・EM団子・EM整流ブロックの作り方講習会
- ・河川（揖斐川など）での浄化活動
- ・環境をテーマにした映画上映会（蘇生1・2）
- ・発酵食や保存食のワークショップ
- ・手づくり味噌教室 など

たくさんの方にご参加いただき、着実にEMの魅力と価値が広がっていると感じています。



●新たにに取り組む活動

今回の採択を機に、次のような新しい挑戦にも取り組んでまいります。

- ・果樹の定植とEM結界による管理
- ・井戸掘削と雨水タンク設置による水資源の自給体制
- ・「百倍利器」の導入でEM活性液を大量生成し、果樹、畑、田んぼへの散布
- ・子どもも大人も一緒に学べる畑イベントの実施
- ・疲れた心と体を癒す憩いの場の整備
- ・災害時のEM活用方法の紹介と啓発活動

この地域には耕作放棄地も多く、手入れがされない森や草地は、時に開発による環境破壊の対象になってしまいます。私たちは、そうした土地をEMと人の手で再生し、「未来へ残せる自然」として育てていきたいと考えています。

●今年度の目標

今年度の具体的な目標は以下の通りです。

- ・井戸の完成と給水・灌漑設備の整備
- ・百倍利器によるEM活性液の安定生成体制の確立
- ・年3回のイベント開催(田植え・稲刈り・収穫祭 など)
- ・果樹10本程度の定植完了
- ・年間参加者100名以上を目指す

これらを通じて、地域に「農×EM×環境教育×災害対策」が融合したモデルを築き上げていきます。



●期待される成果と波及効果

本プロジェクトがもたらす社会的な効果は、多岐にわたります。

- ・EM技術による土壌改良や水質浄化の具体例を発信
- ・EMで人と人、都市と田舎がつながる交流の場づくり
- ・都市部からの関心を呼び、移住や交流人口の増加に貢献
- ・災害時のEM活用法の普及
- ・他地域でも展開可能な「EMユニバーサルビレッジ」モデルの創出

特に都市に住む方から、「土に触れる機会が欲しい」、「安全な食と自然に囲まれた体験をしたい」といった声を多数いただいています。この場が、そんな声に応える場にもなればと思っています。

●さいごに

「EMでこどもの未来を守る会」は、子どもたちに豊かな地球と生きる力を残すことを目的に活動しています。今回の採択を励みに、より多くの方とつながりながら、このビレッジを共に育てていけたらと願っています。お近くの方、そして都市からのご参加も大歓迎です。今後ともあたたかなご支援とご指導を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

「つながりの和で育む地球と生きるプロジェクト」

～ありのまま畑から始まるやさしい暮らし～

ありママクラブ 代表 山田理紗

島根県松江市を拠点に活動する「ありママクラブ」は、「ありのままの自分を大切に」をモットーに、人と人とのつながりを育む活動を行っています。2015年にスタートし、現在は「ありのまま学校」の運営を通じて、子どもも大人も共に“生きる智慧”を学び合う場を育てています。

コロナ禍をきっかけに、人と人とのつながりの大切さや、日本の農業の危機的状況に気づかされ、「未来のために今できることを始めたい」と、このプロジェクトが生まれました。

EM(有用微生物群)技術を活用した「循環型の暮らし」の実践と発信を通じて、人と自然、人と人とのつながりの“和”を広げることを目指しています。活動の中心となるのは「ありのまま畑」。ラムサール条約にも登録されている宍道湖のほど近く、自然に囲まれた場所にあります。この畑では、EMボカシ(生ごみを発酵させた堆肥)を使った土づくりに取り組んでおり、地域の方々と協力しながら無農薬での野菜づくりを進めています。

2025年春からは、以下のような体験型の活動をスタートしました。

- 野菜の種まき、大豆・さつまいもの苗植え
- 薪割り体験と焚き火を囲む自然交流会
- EMボカシ作り・草堆肥・整流炭づくりなどのワークショップ

畑の土壌は粘土質で、雨が少ない時期には固くなりやすい性質があります。今後は、EM技術による土壌改善の変化を観察していきます。また、畑に隣接する古民家、戦時中に使われていた井戸を活用し、「災害時の避難・交流拠点」として整備を進めていきます。日常的には、講座や環境教育、親子向けの体験教室、多世代交流の場として活用します。

活動を重ねる中で、保護者の方からはこんな声も届いてきます。「初めて会った子ども同士が自然に遊びはじめ、仲良くなった」、「子どもが“また行きたい！”と話していた」

こうした体験の中で、人と人、自然とのつながりが育まれ、地球を大切にする生きる力が育まれていくと感じています。泥だらけになって遊ぶ子どもたち、収穫した野菜を分け合う喜び、初対面の人同士が交わすあたたかな言葉…一つひとつが“生きる力”と“希望の種”になっています。

これから取り組むことは以下のとおりです。

- EM技術を活かした講座・ワークショップの充実
- 古民家を防災・地域交流の拠点として整備
- 子どもから高齢者までが関わり合えるコミュニティづくり
- 地元資源を活かした特産品づくりへの挑戦
- 持続可能な暮らしモデルの構築と発信

プロジェクト概要

自然と共生する「循環する暮らし」の和を広げる

自然と共生する「循環する暮らし」を体験・実践できる場を創出することで、地球環境に優しい、人と人とのつながりを育む持続可能なコミュニティモデルを目指します。



プロジェクト概要

ありのまま畑 (島根県松江市)



竹林



井戸



古民家



ラムサール条約湿地
宍道湖

受益対象者

- 地域住民 (子ども～高齢者) 約30名
- 自然農や循環型暮らしに関心のある
県外の訪問者 約20名
- ボランティア 約10名



事業内容

EMぼかしを使用した無農薬の畑づくり

米ぬかにEM(有用微生物群)と糖蜜、EMセラミックを混ぜ合わせ、発酵乾燥させたEMぼかしを使って、家庭から出る生ごみを堆肥化。地球に優しい畑作りを実践します。



事業内容

EM技術を活用した実践型講座の定期開催

EM技術を活かした実践型講座を通じて、自然と調和した畑づくりの知恵を学び合い、持続可能な暮らしの循環を育てていきます。

例) EMぼかし作り、EM活性液づくり、EM草堆肥づくり、EM整流ブロックづくり等



このプロジェクトは、大きな規模ではありませんが、一つの畑と一つの古民家から始まる「つながりの和」が、地域や未来を照らす小さな灯火になると信じています。これからも、仲間と共に、EM 技術を活用した循環する暮らしの実践と、持続可能な未来を育んでまいります。

U-net の皆様の温かいご支援を力に、さらに活動を広げていきます。

引き続き、ご指導、応援をよろしくお願いいたします。

「講評」

U-net 理事長 比嘉 照夫

本日の発表者の皆さま、ありがとうございました。

今回新しくプロジェクト助成に採択された皆さんの取り組みは、これまでの方法と違い、本格的に別の導入方法になって推進されていると感じました。各プロジェクトでたくさんのアイデアがあり、別の機会で個別の説明も付け加えたいと思います。

物事を進めるうえで大切なことは、次元が重なって行くことが大前提であります。過去には、EMの効果があると聞いた方々は、これはどう使うんだ、どうしたら上手く行くのか等々、分からせるのに時間を要し大変でした。それ故、過去にEMを触った人は昔の流儀で考え、次のことは考え難くなっています。それでは新しいEMの方法を教えようとする、それは昔の方法とは違うとして間違いと指摘し、すなわち、自分を変えないで、どんどん変わる大前提を否定してしまっています。

しかしながら、EMを取り扱ううえでは、EMが正しく機能するかどうか、取り扱う人の能力が重要です。何かに取り組む際に、答えは1つのように、従来の学校教育で決ってしまった方法のような前提があったためにEMの初歩の普及に時間が掛かったと言わざるを得ません。EMは100倍や1000倍で使う方法や、葉面散布や土壌灌水と一緒に使った場合等、様々なアプリケーションがあります。このような方法は、学校のテキスト的な仕組みに沿わないのです。EMは生き物ですので、異なった状況に応じた最適なアプリケーションがある訳です。しかし、幸いにして長い経験から、このEMのようなやり方であれば解決しないという状況に進化して来ました。EMのすごい特徴を活かすために、どうするべきかという気付きに発展するのに時間が掛かりました。

物事を考え実行するなかで、平面で考える場合と立体で考える場合、また更にその立体を色々と積み重ねる場合等、様々な水準や次元があります。実際に自然は、あらゆる方向に動いていますので、選択肢の水準は無限大なのです。過去には、私が朝に A と言い、昼には B と言い、夜には C と言ったら、最終的には C が正しいとお話したことがあります。つまり、EMのアプリケーションは常に進化するためです。

今日の皆さんの発表を見ると、EMの特徴を活かすことに気付いた実践者が多くあり、ようやくここまで来たかと思心しました。要するに、皆さんは自分で解決の答えを出し得るレベルに達しています。すなわち、点から平面、平面から立体、更に立体を積み重ねる方法論を身に付け、EMで解決できない問題はないという認識で取り組まれています。皆さんで野菜やお米を作ったり、炭を自分たちで作ったり、整流結界を設置したり等の実践を通して理解し、EMの本質に近づくような人財となっていることが重要なポイントです。

皆さんのアイデアをつなぎ、更に発展させると無限大の世界となります。今では、世界中でEMが使われる時代ですが、ベースの重ね効果、すなわち、どれだけEM技術を重ねて行くかポイントで、ゴールとなる到着点は無いようなもので、更なる発展に広がります。EM技術にはネガティブ性格はありません。

実際に、EMを増やし、ボカシを作り、野菜作りや環境改善の活動等を通してEMに触り、取り組むことで、学校で習うこと以上の知識経験が積み重なり、立派な人財となります。人間が育つ教育には、農業やEM活動が必要ということです。

EM技術は日々進化し、これまでも紹介しているように、放射能汚染対策の結果は国際学術誌にも掲載されましたし、難分解性物質の除去や有機フッ素化合物の分解にも活用されるようになってきました。今回の発表の皆さんも、次元を重ね、EMを上手く機能するように使うことを工夫し、実行することを重ねながら人財を育成し、EMで問題を解決し、EM活動による成果が上げられるものと期待しています。現場に沿った、本当に役に立つシステムを構築し、最終的には健康や環境に貢献し、興業の振興に役立つ。本当の意味で、安全で快適、低コストで高品質で幸福度の高い善循環的社会を創ることができます。楽しみながら新しい学習のあり方で仲間を増やし、社会を良くする活動に繋がると確信しています。

事務局からのお知らせ

■四国EMフェスタ in 愛媛 2025 開催のお知らせ

【大会名】	四国EMフェスタ in 愛媛 2025 善循環の輪・愛媛の集い in まさき
【主催】	えひめEM普及協会
【日時】	令和7年9月28日(日) 12時30分(開場) 13時00分(開会) 16時30分(終了予定)
【場所】	松前総合文化センター・広域学習ホール (愛媛県松前町大字筒井633番地)
【入場料】	無料
【内容】	県内優良事例発表、専門家による最新情報など
【問い合わせ先】	加藤博徳(カトウ・ヒロノリ) 〒791-3164 愛媛県伊予郡松前町中川原659-3 EMail: iyokankatou@nifty.com 携帯: 090-8284-5047

■令和8年第1回理事会及び第27回通常総会の開催日決定のお知らせ

令和8年第1回理事会及び第27回通常総会は、来年、**令和8年(2026年)2月26日(木)**に本年と同じく沖縄県のEMウェルネス 暮らしの発酵ライフスタイルリゾートで開催されることが決まりました。現地参加をご希望の皆様へのホテル宿泊情報などは、ホームページやU-net 通信などでお知らせする予定でございます。

★令和7年第3回EM技術セミナーダイジェスト版 動画視聴のご案内 (会員限定)

7月4日に開催されました第3回EM技術セミナーでの発表をまとめたダイジェスト版動画を配信します。配信期間中はインターネットに繋がるパソコン、スマホがあれば、お好きな時間にダイジェスト版動画を視聴できます。

【配信期間】 8月22日(金)の朝9時～8月25日(月)の夜9時まで

視聴をご希望される会員の方は**8月18日(月)**までにお名前と、「ダイジェスト版視聴希望」と標題に明記の上、事務局(info@unet.or.jp)へメールにてご連絡をください。

視聴用 URL は8月21日(木)に事務局よりメールにてお知らせいたします。

★令和7年第4回EM技術セミナー開催のお知らせ(会員限定)

令和7年第4回EM技術セミナーを令和7年9月5日(金) 14時～16時に開催します。

セミナーへの参加申込は令和7年8月4日(月)から当会のホームページ(<http://www.unet.or.jp/>)のインフォメーション欄から受付を開始しておりますので、お申込み専用ページからウェビナー登録いただきますよう、お願い申し上げます。**お申込みの締め切りは令和7年9月4日(木)**です。

なお、セミナーのプログラムにつきましては、後日、当会のホームページでお知らせします。

※令和7年第4回EM技術セミナーは U-net 会員様限定の配信となっております。

ウェビナー登録時、ご記入いただくお名前と会員様のお名前が違う場合、参加登録が出来ない事がございますので、ご注意ください。また、グループ、法人会員の皆様は、氏名に加えて、所属するグループ名または法人名を記載いただきます様、お願い申し上げます。例) 姓 名
ウェビナー登録についてご不明な点がありましたら、U-net 事務局にお問合せ下さい。

問い合わせ先 EMail: info@UNET.or.jp 電話番号: 098-923-2600



★商工会女性部主張発表福島県大会で最優秀賞(県知事賞)を受賞！

本会のグループ会員でもある福島県大玉村商工会女性部の中條様の主張が昨年開催された商工会女性部主張発表福島県大会で最優秀賞(県知事賞)を受賞されました。今回、中條様に本通信への掲載についてご相談したところ、掲載を快くご了解を頂きましたので、ご紹介させていただきます。

主張

福島県大玉村商工会女性部 中條 弥朱

会場の皆様、こんにちは。福島県県北地区所属小さくても輝く大いなる田舎、大玉村から参りました大玉村商工会女性部中條弥朱です。どうぞよろしくお願いたします。

私は、女性部に入部して25年。その当時の部長さんたちは、母に入部をしてほしくて勧誘にいらっしゃいましたが、母は私に「これからこの地で商売や子育てをしていくのはあなたなのだから…」と言い、この一言がきっかけとなり入部しました。

飲食店を営む自営業ですから、私には同僚と呼べる人もいないわけでもなく、仕事、家事、育児と大変でしたが、当時は「女性部の集まりに行ってきます」と言うと気兼ねなく、お店を出る事ができ、私にとって女性部の活動が仕事以外の自分のホッとする居場所だったように思います。私たち女性部も他の部と同じように、地元で行われるイベント、夏まつりや運動会、文化祭などに出席をして、焼きそば、おこわ、豚汁作りを行っています。通年を通して行っている事業に「EM活性液作り」があります。

EM活性液を作り始めて約20年。当番表を基に週に1～3回、一度に100Lを作っています。EM活性液って何？ 何がすごいのか…と 思われた方もいらっしゃると思いますので、少し説明をさせていただきます。まず、EMという物質の中にはヨーグルトや漬物をおいしくしてくれる 乳酸菌、お酒やビールを作ることの

できる酵母、そして、いろいろなものからエネルギーを取り入れることのできる光合成細菌など、たくさんの微生物の集まりでできているものがEMです。

そして、EMを糖蜜で培養し活性化させたものが「EM活性液」です。ですから、活性液は汚染物を分解する力がある微生物の集まりで環境問題の解決に役立ち、ガラスや床などをお掃除するとキレイになり、汚れもつきにくくなります。

みなさん、排水溝のヌメリ・・・お困りではありませんか？ そんな時こそ、活性液でシュシュシュとお掃除してみてください。もう、手放せないのが「EM活性液」です！「一家に1本いかがでしょうか！」なんて、通販番組みたいですね！商工会の日には、女性部活動として、EM活性液をペットボトルに詰めて無償で教育施設や社会教育施設、福祉施設へと配布をして、大変喜ばれています。

私たちの住む村には、2つの小学校があり、私たち女性部は、毎年、秋に小学校のプールへと出向きます。その年に使用したプールへのEM活性液投入の始まりです。小学5年生と共同で行うのですが、生徒、自らが20Lのポリタンクをプールサイドに運んでくれます。二人一組で運ぶ生徒、重いのに一人で運ぶ生徒が頑張るその姿を見ていると、なんだか孫を見守るような気持ちで、私たちは胸がいっぱいになってしまいます。

準備ができれば、最初にEM活性液の説明をします。いざ、EM活性液の投入が始まると「今までに嗅いだことがないにおい！！」想像もしない色に、生徒は困惑！！生徒一人が「くさ～い！」と言い出したら、にぎやかなくらい「くさ～い！！くさ～い！！」の連発で、プールは「くさ～い」の大合唱。EM活性液が、跳ね返って、ちょっとでも服や体についたものなら「もう死んぢやうよ」なんていう生徒もいて、毎回私たちは、楽しく活動させていただいています。

そして、次年度の春、同じ体験をしてほしいと思い、同じプールに、同じ生徒とEM活性液投入を行います。2度目の投入の際も、「くさ～い！！」の大合唱は、期待どおりの反応です。この事業は、これでは終わりません。また、プール開き直前にも、小学校のプールへ出向き、生徒たちと一緒にプール掃除を行います。8か月間、EM活性液を入れてあったプールは、強くこすらなくても、楽にお掃除ができるようになっていきます。私たちは、このようにEM事業を通して、小学生との交流を行っています。

地域においては、大玉村を流れる安達太良川に年に5回から6回の放流を行っています。ある日、いつものように女性部で、橋の上に赤いポリタンクを並べて、活性液を放流していると、トラックが止まり、「あんたら何、変なもの川に流してんだい」、「おれらはここで米作ってたんだ」、「変なもの流されたんでは困るんだ」と、すごい剣幕で言われました。今まで、何も言われたことがなかった私たちは、もうびっくりで・・・「私たちは、商工会女性部です。これは、活性液と言って、決して変なものではないんです。」と、一生懸命、説明をしたのですが、トラックの運転手さんの表情を見る限り、不信感は癒えたとは思えませんでした。私たち女性部は、今まで当たり前にしてきたことですが、もっと女性部の活動をアピールしなくてはと「EM活性液放流中」と大きなプラカードを作り、女性部のピンクのジャンパーを着て作業行うことにしました。

また、安達太良山麓に「ふれあい村民の森」があり、その中に大きな池があります。「ふれあい村民の森」ができた当初は、きれいな池でしたが、みるみるうちによどみ、悪臭がして、とても近づけるような状態ではありませんでした。私たちは、その池に毎年、やはり5回から6回、EM活性液を投入したところ、継続は力なりという言葉通り、今ではメダカが住めるくらいきれいになり、村内の幼稚園や小学生が校外学習で訪れる、学びの場として活用され、今では、池にはカモの姿を見ることができるようになり、犬の散歩を楽しむ人々、子どもたちの声が聞こえるような、村民の森となっています。

このEM活性液には、まだまだ活用があります。EM活性液と廃油などでEM石鹼が出来上がります。

石鹼づくりは、商工会地区広域事業「若手後継者等育成事業」などの勉強会に出席し、数名がインストラクターを取得したことにより、始めました。この環境に優しいEM石鹼を使って排水することにより、川・湖、そして海がきれいになっていく、また石鹼づくりに必要な廃油は、本来捨てられてしまうはずのものを、地元住民が女性部の活動のために商工会へ持参してくれる・・・まさに SDGs です！

この活動が評価され、村からはEM石鹼を作る作業場の提供と活動費の補助をいただいています。EM石鹼は、ふるさと納税の返礼品としても活用されており、北は青森、東北地方、南は九州からも発送の依頼があります。毎年、購入していただきリピーターもとても多く、県内はもちろん、仙台、東京、大阪と遠方からも注文をいただいています。EM活性液やEM石鹼は、村の直売所でも販売をしており、好評をいただいています。ありがたいことに、私たちの生産が追い付かない状態となっています。これは、多くの方々が、知らず知らずに使って、環境美化活動に携わっているのだと、とても嬉しく思っています。

しかし、このような女性部活動を行っていますが、私が入部した当時、50人近くいた女性部員も、事業の縮小、承継者がいないなど、様々な理由により、今では、半分以下の人数となってしまい、とても苦しい状況です。でも、私たちは目の前に広がる雄大な安達太良連峰、田園風景、鳥のさえずりが聞こえる池のほとり、そして、子どもたちの笑顔や笑い声が絶えない未来になるよう、環境問題に背を向けず、私たち「大玉村商工会女性部」は微力ながらも、EM事業に取り組み、美化活動を続けていきます。

★埼玉県朝霞市でEM講習会を開催しました

6月29日に、本会U-netと横浜EMウェルネス構想有志の会、NPO関東EMネットワークの3団体共催によるEM講習会が埼玉県朝霞市にて開催されました。



EM基礎講座は事務局の齋藤さんが担当し、スライドを用いてわかりやすく説明されました。畑や稲作へのEM活用について活発な質疑応答がありました。その後、事務局長の新谷さんよりEM最新情報のお話があり、土作りへのEMと炭の活用方法をわかりやすく説明され、発酵合成型土壌(EMテラプレタ)を作るための最新情報も発表されたので、こちらも活発な質疑応答がありました。また、NPO関東EMネットワークの野村会長、横浜EMウェルネス構想有志の会の杉本会長より、それぞれの会の活動内容のご紹介がありました。講習会に参加された方々の自己紹介もあり、楽しく情報交換と交流を行う事ができました。

座学の後には、EMを活用している朝霞厚生病院付属農園の見学会と収穫体験会がありました。農園ではEMの活用方法や野菜の栽培方法など齋藤さんへの質問が途切れませんでした。収穫したジャガイモやキュウリは参加者の皆さんで分けてお持ち帰りして頂きました。



共催団体のご紹介

【横浜EMウェルネス構想有志の会】

横浜EMウェルネス構想有志の会では、あかね台眼科脳神経外科クリニックの杉本一朗先生を中心に、EMユニバーサルビレッジモデルづくりプロジェクトに取り組み、農場でのEM野菜の栽培、医食同源、腸内細菌、オーリングを学ぶセミナーの開催、こども食堂のサポート活動等を行なっています。詳しい活動内容は右のQRコードからホームページを御覧ください。



【NPO 関東EMネットワーク】

NPO 関東EMネットワークではEM技術と自然農法の講座やセミナー、EM活用現場の視察、EMボカシネットワークへの支援、安心・安全な農産物の地域流通の推進、EM情報便りを年2回発行しています。ご関心のある方は下のQRから、LINEの会員登録やInstagramをフォローしてみてください。

LINE会員登録してね



Instagramフォローしてね



【つながる健康サークル】

つながる健康サークル(会長 杉本一朗先生)では、オンラインと埼玉県で健康講座を行っています。EMを用いた健康・予防医学のための講座を行っております。EMでつながって活動の環を広げましょう。メールにて最新情報を配信しています。当サークルの詳しい情報をご希望の方は以下の問い合わせ先メールアドレス宛に、情報希望とご連絡ください。

問い合わせ先: E-mail sustainable.peace.world@gmail.com